

感染予防のための援助 教科書 p 200～

学ぶにあたって

感染対策においては、誰に対しても「なんらかの病原体に感染している可能性がある」と考えて対処していく姿勢が重要となります。また、施設内と異なり感染のリスクは少ないが、居宅を巡回する看護師や訪問介護員など外部訪問者やペット、乳幼児などをはじめとした同居者が、感染症の媒体となり得ることが在宅の特徴です。

本日の目標

- 1、感染症に関するアセスメント及び援助の実際について考えることができる
- 2、感染性廃棄物の取り扱いについて理解できる

1-1) Aさんの状況を踏まえ、Aさんの状態観察をするうえで、必要な予防策は何か考えてみよう

状況  
Aさんより、2日前から腹部に赤い丘疹きゅうしんがあり、病院受診をしたら「疥癬」と診断された。



訪問看護師が行う予防策

1-2) Aさんへの日常生活上の指導法（支援）について考えよう。 老年看護 病態・疾患論 p 247～ 老年看護学 p 237～

隔離の必要性	
衣類の洗濯	
ヘルパーさんが注意すること	
感染力	

角化型疥癬（ノルウェー疥癬）の場合は・・・

隔離の必要性	
衣類の洗濯	
ヘルパーさんが注意すること	
感染力	

感染症の療養者さんがいる場合の訪問経路

2、感染性廃棄物の取り扱いについて理解できる

廃棄場所について考えてみよう。

注射針などの 鋭利なもの 	ペン型 自己注射用針 	輸液バッグなどの プラスチック 	チューブ類 カテーテル類 	紙おむつやガーゼ 	消毒薬の空瓶など 

体温を安全に保つための援助 教科書 p 200

学ぶにあたって

□熱中症とは、高温多湿の環境に身体が適応できないことでおこる様々な総称で、気温が皮膚温以上の場合や、湿度が非常に高い場合に、放熱や発汗ができにくくなって起こります。

□熱中症による死亡の約 8 割が 65 歳以上の高齢者で、発生場所は（ ）と報告されています。

本日の目標

1、A さんに対し、熱中症を予防する対策について考えることができる

はじめに

□熱中症を引き起こす 3 つの要因

環境	
身体	
行動	

□A さんのような高齢者は、熱中症のリスクが高いと言われている理由を説明しましょう

1-1) 事例をもとに、A さんに必要な熱中症予防に対する支援方法について具体的に考えてみましょう

環境	
身体	
行動	

1-2) A さんに、熱中症でないかと疑わしい症状が見られた場合の対応（支援）について考えてみましょう

■視点：A さんは独居である

--